

# 目指します！ 手にとっていただける 議会だより

11月18日、県町村議会広報研修会が開かれ、議会だより編集委員の代表2名が参加しました。当日は、編集姿勢や記事の正確さ、読みやすさ、印刷効果等の講演がありました。今後の編集活動に生かし、1人でも多く町民の皆様に手にとって読んでいただける議会だよりをめざしていきます。



## 3月定例会の予定

会期	本会議が傍聴できます
3月2日	2日(火) 議案審議
	3日(水) 議案審議
3月19日 (18日間)	10日(水) 予算審議
	11日(木) 予算審議
	12日(金) 一般質問
	19日(金) 議案審議

本会議は  
今回から **午前 9:30 開会**  
傍聴をお待ちしています

請願・陳情の締切は  
**2/17(水) 午後5時**です

日程は変更になる場合があります  
お問い合わせは  
議会事務局 ☎ **581-9995**

### 「町民との橋渡し役に」

編集委員としてお世話になり、議会と町民との橋渡し役が編集委員の役割と考えます。いかに議会の内容を分かりやすく町民に伝えられるかは、編集委員の力量にかかっていると思います。私も編集委員の一員として、町民に分かりやすい議会だより発行のため、努力していきたいと考えております。(原口 孝)

### 議会だより 編集委員会

- (委員長) 田母神節子 (副委員長) 押田秀夫  
 (委員) 佐藤理美 原口 昇  
 岡本安明 稲山良文  
 (議長) 原口 孝

寄居町議会の取り組み・お知らせ・編集後記



# 赤浜の渡しと 松平忠長

保坂達司 (男衾・赤浜)



鉢形北条氏が全盛の時代、赤浜の地の在地勢力として大久保一族(旧姓は大窪、三兄弟)がいた。頭目は大久保左之助である。徳川三代将軍家光の弟、松平忠長(駿河大納言ともいふ)は、血を分けた兄弟でありながら政権争いの渦に巻き込まれて、逆賊の汚名を着せられる形となった。忠長は将軍家光の命により、罪人として甲府から高崎へ送られることになったのである。三代将軍家光の時代は江戸幕府の支配が確立しない不安定な時代で、全国的に見ても不穏な空気が漂っていた。兄弟の間でもややもすれば将軍職が奪われそうな様子もあり、ましてや取り巻きなどにも権力を分捕るうなどという人たちも多かった。だから、実の弟でも疑いを持たれば消されるなんて当たり前だった。

寛永十年、忠長は高崎へ連行される途中、赤浜を通る際に、前述の李之助宅に一泊した。李之助宅には、樅の大木があり、忠長は樅の花の落ちるのを見て「明日は我が身か…」とつぶやいたと言われている。居合わせた人々は一様に、落ち行く忠長の心情を思い、涙したという。高崎に着いてから自害したと聞き、驚き悲しんで供養のために祠を建て、門口には石の地藏様を建てた。地元の人々は「大納言様」と呼んでいる。赤浜の渡しは、鎌倉街道の渡河点であり、古くは新田義貞が鎌倉攻めの際にも通過したとされる。当時目印とされた獅子岩(川越岩)は、現在の汚泥再生処理センターの北側にあたり、忠長もここで荒川を渡り、高崎に向かったという当時の様子を偲ぶことができる。



荒川の「赤浜の渡し」跡(左)と 忠長を供養すると伝えられる祠(右)